



奈川の人口	
平成 29 年 1 月 1 日現在	
総世帯数	349 世帯
総人口	750 人
男	356 人
女	394 人

発行 奈川公民館
 発行者 勝山 裕康
 編集者 公民館編集委員会
 印刷 (株) プラルト



祝 成人式

平成 29 年 1 月 8 日
 奈川地区対象者 9 名



前列左から：奥原 朋美さん、忠地 美空さん、小林 瑞樹さん 二列目：北原 健人さん、奥原 健人さん、担任の奥原 千晶先生 三列目：奥原 大河さん、奥原 頌さん、南 歩夢さん、越村 勇介さん

新成人の皆さんに抱負を伺いました

- ❖ 奥原 朋美 自覚と責任を持って、充実した日々を過ごしたい。
- ❖ 忠地 美空 家族に感謝し、社会に貢献できるよう頑張りたいです。
- ❖ 小林 瑞樹 いち社会人として、恥をかかないようにがんばりたい。
- ❖ 北原 健人 大人としての自覚を持って、何事にも挑戦していきたいです。
- ❖ 奥原 健人 ゲーテによれば、人間の最大の罪は不機嫌だそうです。ハッピーに生きます。
- ❖ 奥原 大河 就職してからいろいろ難しいことがありましたが、これからも一つ一つ乗り越えていきたいと思います。
- ❖ 奥原 頌 前向きに頑張ります。
- ❖ 南 歩夢 いち社会構成員の自覚と広い視野をもって生きる。
- ❖ 越村 勇介 成人になり何が変わったかを答えられるようになる。



クリスマスのおはなし会



12月16日、夢の森視聴覚室でクリスマスのおはなし会を行いました。もみの木の手あそびから始まり、絵本「ゆきだるまのあたまた」の読み聞かせ。最後は真っ暗な部屋の中で光るブラックパネルシアターをしました。お話が全部終わると、子どもたちは不思議な光るパネルで遊び、冬のひとときを楽しみました。

第二幕はうたと演奏。奈川中吹奏楽部の息の合った演奏の他、毎年コンサートに出演してくださる方の演奏も披露され、会場を大いに盛り上げました。

お楽しみ抽選会では、当選者の名前が読みあげられるたびに拍手が起こり、一足早いプレゼントを手に入れしうに席に戻る子ども達の姿も見られました。会場が一つになれた素晴らしいクリスマスコンサートとなりました。

夢の森クリスマスコンサート

12月11日、文化センター夢の森にてクリスマスコンサート2016が開催されました。今回は例年とは違い、午後の早い時間からの開催でしたが、多くの方で席がうまっていた。第一幕として行われたのはまつもと演劇工場による演劇「風の劇場」ケンジ旅行記」。マイクなしでも通る大きな声や歌声が会場内に響き、見ている方々を物語の世界へと引き込んでいきました。



演劇で表現する宮沢賢治ワールド

世代間交流～伝統飾りで交流会～

12月17日、文化センター夢の森にて世代間交流事業が行われました。高齢者クラブの方を中心に毎年開催されているこの事業では、年配の方のしめ縄作りを子どもたちが学び、受け継ぎながら交流を深めています。教える方も習う方も皆熱心に取り組んでいて、参加者の中には年々上達する子どもの姿も見られます。作業の後は日赤奉仕団による温かい豚汁と、ささゆりの会の皆さんと一緒にいただいたお餅を参加者全員でおいしくいただきました。サプライズでサンタさんからのプレゼントもあり、短い時間の中でしたが、参加者同士の交流が深まったひとときとなりました。



クリスマスといえばサンタさん



奈川に暮らし 奈川で生きる

11月27日、第二回奈川のくらしを語る会が行われました。四賀地区社会福祉協議会の山岸先生を講師に、お互いの気持ちで、地域に「助け上手」「助けられ上手」を増やす、住民の支え合い事業について講演いただきました。

講演後の井戸端会議では、奈川で暮らして改めて思うことの不安など、多くの意見が出され、これからこの課題を共有し、認識することができました。



井戸端会議の様子



▲そーれ、ヨイショ!

▲きれいに飾りつけできたかな?



野麦路

映画館での予告を観た時に、これは絶対におもしろそうだと、わざわざ前売り券を買って夏に息子と観た映画が、昨年大ヒットした「君の名は。」である。小説にてストーリーを把握した上で観た息子は、一度観ただけで展開が理解できたと言っていたが、私にはそれが無理だった。ブームが一段落した頃に、再度映画館に足を運んだ。一度目ではわからなかった部分も、二度目には理解できてすっきりした。また、ストーリーを知って臨んだ二度目だからこそ、場面場面にリンクした曲が映像とぴたりマッチして心に響き、一度目よりもうるつとしてしまった。映画の影響から何年かぶりに安房を越えてもみたり、知ってはいったが食べたことがなかった高山ラーメンも食べることができた。牛串もうまかった。

息子をつれて何度となく訪れた飛騨高山地方。「君の名は」のブームとともにやってきた我が家の高山ブームは、まだまだこれからも続きそう。 (古畑 きみよ)